

施術報告書

●●診療所

院長 □□ △△ 先生御侍史

- 以下のとおり、施術の状況を報告いたします。
- 本報告をご覧いただくとともに、直近の診察に基づいて、施術継続の再同意の可否についてご判断いただきますようお願いいたします。
- ご不明の点や特段の注意事項等ありましたら下記までご連絡いただきますようお願いいたします。

患者氏名	鈴木 太郎 さま
患者生年月日	昭和 48年 8月 23日
施術の内容	<傷病名>腰痛症 <施術内容>動作時（起き上がり、立上り、体幹の前屈時）に痛みの訴えがあるL3～L4 脊柱起立筋上の箇所を中心に、φ0.18 mm×30 mmデ イス 鍼を 10 mm程度刺鍼及び赤外線照射を行いました。
施術の頻度	月 平均 3 回
患者の状態・経過	施術開始7週目より徐々に疼痛は緩和。痛みにより仕事を休む頻度も減少し、現在はほぼ休まずに仕事に行く事ができています。しかし夕方頃になると痛みが強くなり帰宅後、自宅では横になっている事が多いとの事です。 <NRS 評価>H30.7.20:スコア 8→H30.10.12 スコア 4
特記すべき事項	症状は改善されておりますが、未だ疼痛が残存しているため引き続き鍼灸施術の継続をご希望されております。 ご高診の上、再同意のご検討をお願いいたします。

令和3 年 10 月 12 日

施術所名 全鍼はり・きゅう院
住所 東京都新宿区四谷〇〇—〇〇
電話・FAX番号 03-1111-2222
メールアドレス qqqqq@www.ne.jp

施術者氏名 大阪 なおみ

記入上のポイント

＜施術の内容＞

- ・ 同意を受けた傷病名を記載する
- ・ 施術の内容について

「どのような症状の改善のために」「どのような施術を行ったか」の2点を記載する。東洋医学的な証などについては共通言語として理解していただく事が難しいので記載は避ける。

＜施術の頻度＞

- ・ 同意期間中の月平均の施術回数を記載。

症状の変化によって頻度が変わった場合は、その旨を記載する。

＜患者の状態・経過＞

- ・ 経過について

はり・きゅうの場合、「慢性の疼痛」に対する施術が療養費の対象という目標が明確であるため、「患者の痛みの訴えの経過」（主観的変化）と「日常生活上変化（客観的変化）」について記載する。

- ・ 状態について

はり・きゅうの場合、「慢性の疼痛」に対する施術が療養費の対象という目標が明確であるため、ペインスケールなどで施術開始時と現在の状態を記載する（NRS だけでなく VAS や FRS でもいいと思いますが、1 年以上月 16 回以上施術継続理由状態記入書が NRS を用いているため例示では NRS を用いています）

